

魚類防疫技術試験（魚病診断）

佐藤 晋一・松田 忍・前田 穰

目 的

青森県内における魚類の魚病を診断し、魚病被害の抑制及び防疫対策に役立てることを目的とする。

材料と方法

1. 魚病診断

内水面養殖業者や海産魚類増養殖場等から検査依頼があった検体について、定法により魚病診断を行った。

2. アユ放流種苗の冷水病及びエドワジエラ・イクタルリ感染症の保菌検査

県内の施設で生産されたアユの種苗について、放流前にPCR法による冷水病及びエドワジエラ・イクタルリ感染症の保菌検査を行った。

結 果

1. 魚病発生時における診断

表1に魚種別疾病別診断件数を、表2に月別診断件数を示した。

平成25年の魚病診断件数は14件であった。

魚種別にみるとアユとイワナが3件と多く、次いでサクラマス、コイ、イトウがそれぞれ2件であった。

疾病別では冷水病が2件、冷水病とギロダクチルス症の合併症が2件あった。

月別では例年同様、春から夏期にかけての発生が多い傾向にあった。

表.1 魚種別疾病別診断件数

疾 病 名	魚 種 名							合 計
	サクラマス	アユ	イワナ	ニジマス (トナルドソ)	コイ	イトウ	キンギョ	
細菌性鰓病	1							1
腸管鞭毛虫症	1							1
冷水病				1		1		2
せつそう病			1					1
A. ハイドロフィラ感染症					1		1	2
合併症								
①細菌性鰓病＋水腫症			1					1
②細菌性鰓病＋せつそう病			1					1
③ギロダクチルス症＋冷水病		2						2
<i>Pseudomonas anguilliseptica</i> 感染症		1						1
不 明					1	1		2
計	2	3	3	1	2	2	1	14

表.2 魚種別月別診断件数

魚 種 名	診 断 月												合 計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
サクラマス		1	1										2
アユ		1					1	1					3
イワナ			1		1		1						3
ニジマス (ドナルドソ)			1										1
コイ					1						1		2
イトウ							1	1					2
キンギョ										1			1
計		2	3		2		3	2	1		1		14

2. アユの冷水病及びエドワジエラ・イクタルリ感染症の保菌検査

県内の施設で生産されたアユの種苗について、平成 25 年 5 月 8 日に採取された 60 検体（1 検体 6 尾プール）の検査を行ったが、冷水病並びにエドワジエラ・イクタルリ感染症の病原菌は検出されなかった。

考 察

アユの*Pseudomonas anguilliseptica* 感染症は2月から5月に青森から富山までの日本海側各県で発生が報告された。(独)水産総合研究センター増養殖研究所によると、本症は1970年代以来発症がみられなかったといわれている。組織学的診断では筋肉や真皮コラーゲン内に重篤な感染がみられた。さらに、好塩性のため塩水浴の効果はないといわれており、天然のそ上魚だけでなく、池産系の稚魚でも発症がみられている。菌の遺伝子型がすべて一致していることから再流行ではないとも報告されている。

このように、発生が広範囲にわたり重篤化することで、今後も発生が予想されることから、異常へい死が認められた場合には早期診断、対策により被害軽減に努める態勢をとっておくことが必要である。